



滋賀県中山間地域振興の手引き

概要版



地域での話し合いから始めよう！！

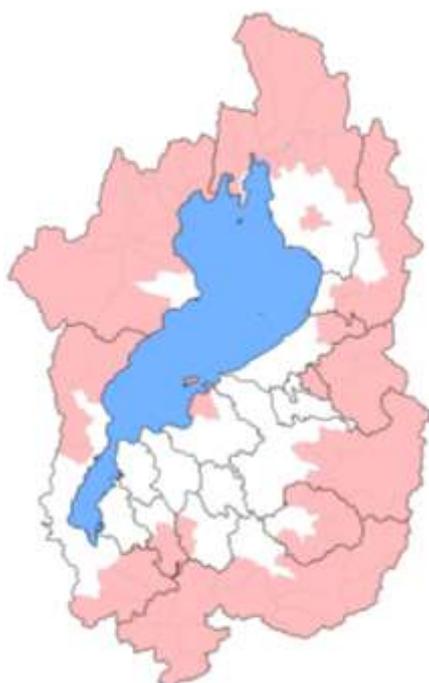
目 次

1. 手引きの目的.....	1
2. 手引きの構成.....	2
3. 滋賀県中山間地域の現状.....	3
4. 滋賀県中山間地域の課題.....	5
5. 本手引きにおける中山間地域が目指す姿	6
6. 手引きの使い方.....	8
7. 中山間地域の 10 の振興策とその方法の概要	18
参考1 振興策別事例一覧.....	資料 1
参考2 ワークショップ方式での課題整理	資料 4
参考3 地域での話し合いで活用できるシート	資料 6

1. 手引きの目的

琵琶湖を含めた県域の 56%を占める中山間地域※には、16%の県民が生活しています。その中山間地域では、人口減少、高齢化による人手不足に加え、獣害が暮らしや農林業に大きな影響を与えています。

そこで、中山間地域に存在する地域資源の活用や、地域の問題の解決についての話し合いを助ける情報を集めた「中山間地域振興の手引き」を取りまとめました。



中山間地域の対象
(令和4年度末時点)

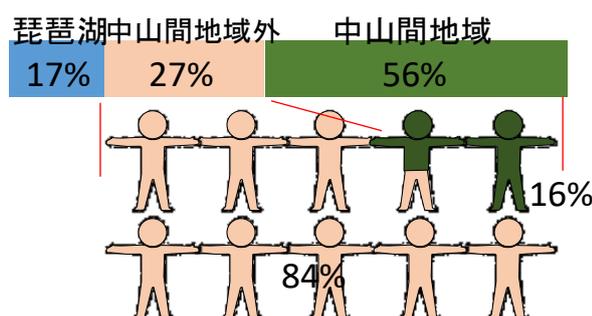


図-県全体に対する中山間地域の面積の割合(上)
人口の割合(下)

※ここでの中山間地域の対象

特定農山村法、山村振興法、過疎法等の地域振興立法指定地域と、農業地域類型第1次分類「中間農業地域」「山間農業地域」

～ 想定される手引き、概要版（行政担当者向け）の活用の仕方 ～

この手引き概要版は、地域に配布する簡易版に、中山間地域の現状データの紹介と行政担当者の活用におけるポイントを加えて編集しています。

簡易版と同様に、手引きが提供する検討のシートの使い方を中心に、手引き本編で示す振興策やその方法の概要、事例集の一覧などを紹介することで、詳細な解説を掲載する本編の該当箇所を簡単に見つけられるようになっています。

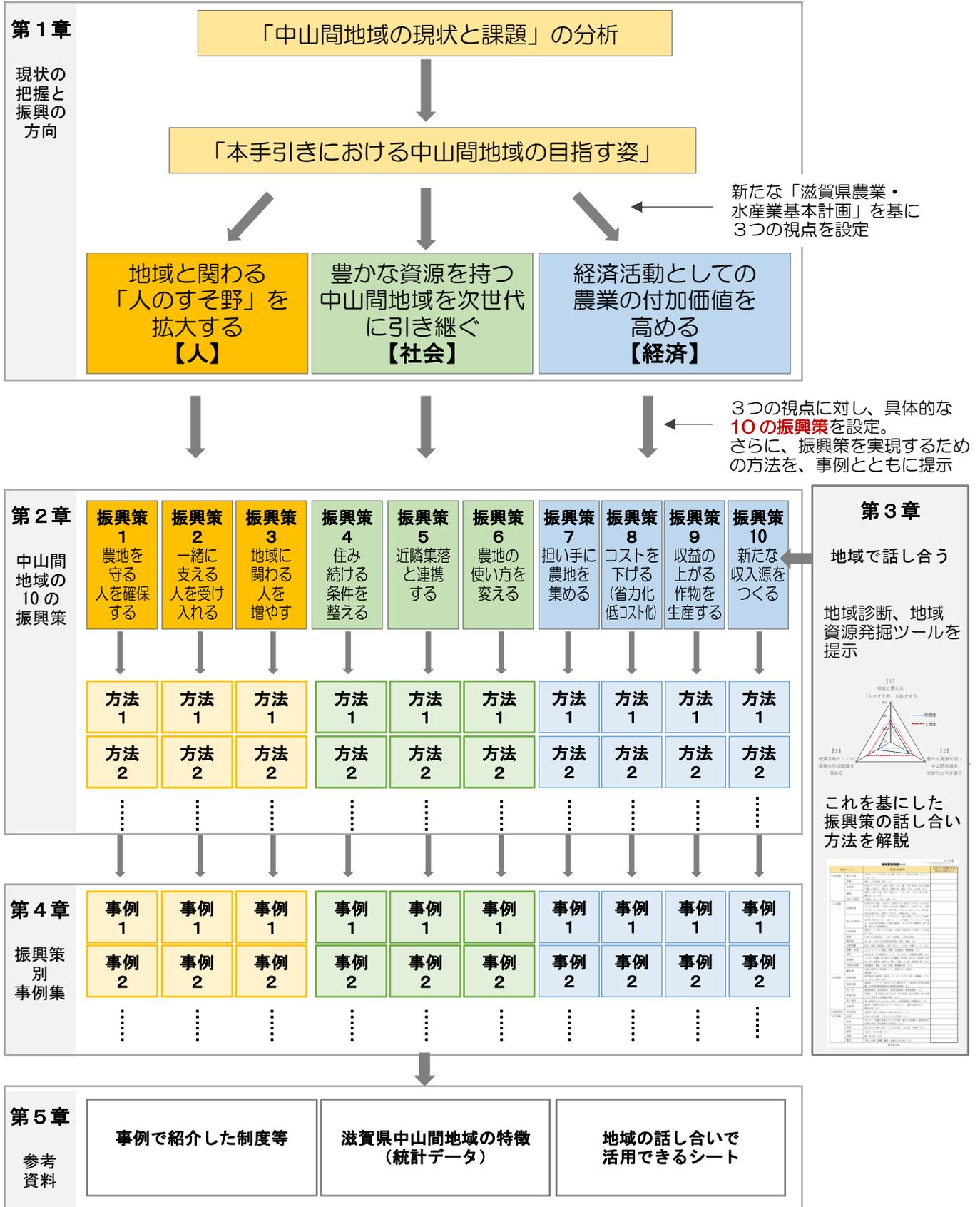
そのため、**手引き本編と一緒に活用**していただくことを想定しています。

なお本編は県ホームページからダウンロードすることもできます。

2. 手引きの構成

「滋賀県農業・水産業基本計画」の方針を基に定めた3つの方向性に対し、10の振興策と振興策を実現するための方法を事例とともに紹介しています。

併せて地域での話し合いのツールの提供や制度も紹介しています。



3. 中山間地域の現状

人口の状況

県内の中山間地域では一部を除き人口は減少

中山間地域と県全体と比較すると、中山間地域では平成12年頃には人口減少に転じています。また、中山間地域の中でも、平成7年から令和2年の間で人口増加した地区を除いた中山間地域では、25年間で33%減少しています。

滋賀県の中山間地域と県全体の人口推移と変化率



中山間地域の人口減少地域と増加地域の人口推移



出典：国勢調査（平成2年以前は滋賀県人口推計）

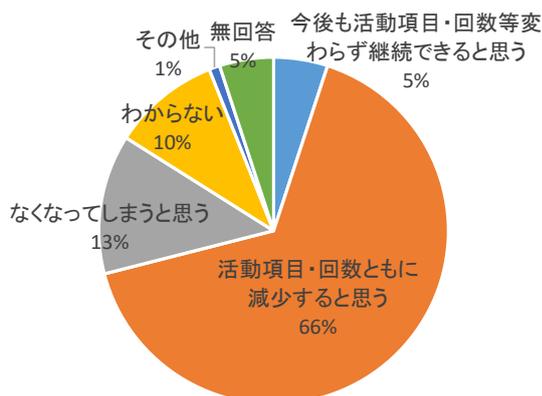
暮らしの状況

中山間地域の地域コミュニティ機能の低下、獣害への不安

地域活動の8割が減少・なくなるという不安

集落で行われている共同作業・地域活動が今後（5年～10年）で「活動項目・回数が減少」が66%、「なくなってしまうと思う」が13%となっており、中山間地域の多くで活動が縮小すると予測されています。

集落で行われている共同作業・地域活動の今後（5～10年後）について

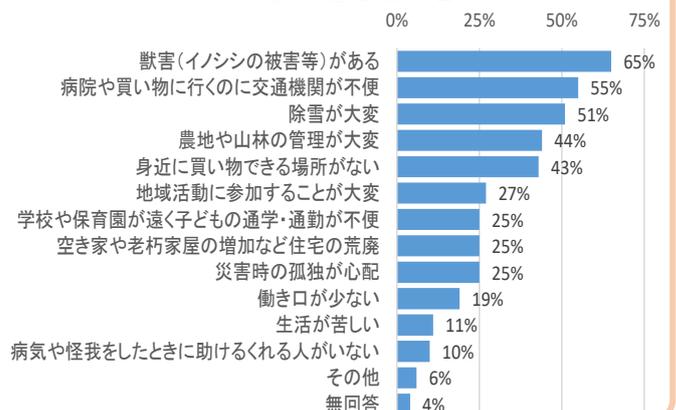


中山間地域の6割は獣害が不安

暮らしで不安に感じることで最も多いのが「獣害」で6割を超えています。

次に「交通機関の不便さ」、「除雪」が5割を越え、「農地・山林の維持管理」、「買い物」は4割を越える住民が不安に感じています。

居住地（集落）での暮らしで不安に感じること



出典：中山間地域現状調査報告書 平成29年度 滋賀県

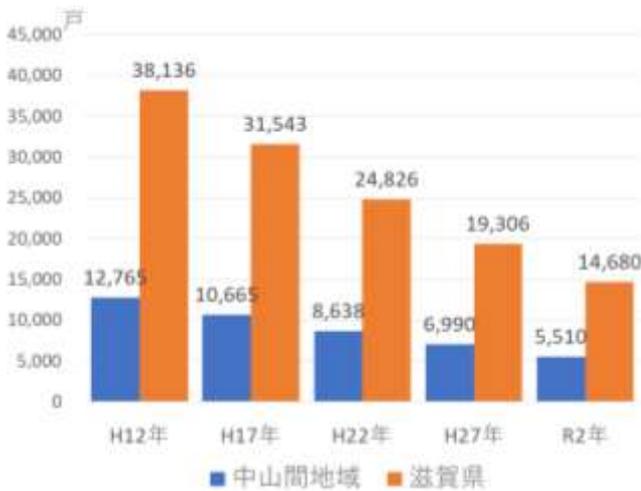
農業の状況

中山間地域の農家は減少し高齢化、放棄地は増加傾向

販売農家数は 20 年間で約半分に

販売農家数は減少しており、滋賀県全体は平成 12 年に比べ令和 2 年で 38%、中山間地域では 43%まで減少しました。

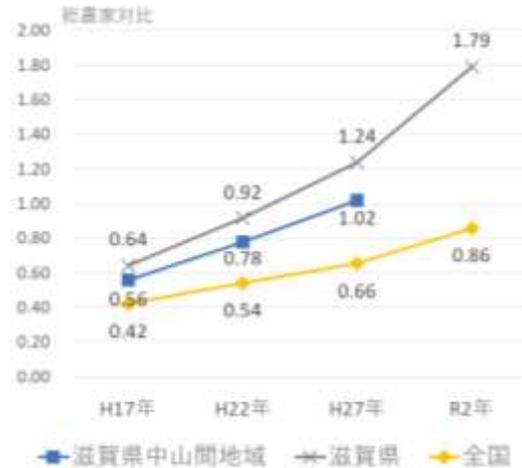
販売農家数



土地持ち非農家が農家数を上回る

滋賀県中山間地域の土地持ち非農家数は、平成 17 年には総農家の 0.56 倍でしたが、平成 27 年には総農家数を上回り 1.02 倍となっています。滋賀県全体ではさらに多くなっています。

総農家数に対する土地持ち非農家数の比

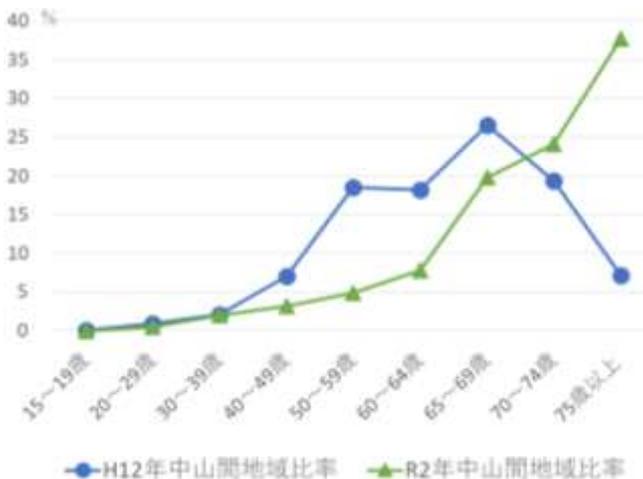


※令和 2 年は小地域（旧市区町村）単位での調査が実施されていないため、中山間地域のデータ無し。

基幹的農業従事者の 38%が 70 歳以上

中山間地域の基幹的農業従事者人口の年齢構成は 75 歳未満は全年代で比率が低下し、75 歳以上の比率の増加が顕著になっています。

滋賀県中山間地域基幹的農業従事者人口年齢構成



31%の農家が耕作放棄地を有する

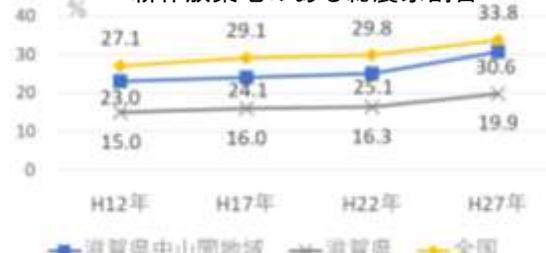
全国と比較すると滋賀県の耕作放棄地率は低くなっています。一方、中山間地域は全国と同程度であり、増加傾向にあります。

耕作放棄地のある総農家割合も滋賀県中山間地域は 31%と高い比率で推移しています。

耕作放棄地率



耕作放棄地のある総農家割合



※耕作放棄地面積/経営耕地面積（農業経営体）*100
但し平成 12 年は経営耕地面積（総農家）に対する比率。
令和 2 年は耕作放棄地の調査が実施されていないため、データ無し。

出典：農林業センサス

4. 滋賀県中山間地域の課題

各種統計や既存の中山間地域を対象とした現状調査の結果を踏まえると、人に関わる課題、暮らし（社会）に関わる課題、産業（経済）に関わる課題があげられます。

また、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響により、地元に戻り働き始める人や地方で働くことを望む人が増加しています。このような全国的な田園回帰の傾向は、中山間地域の振興には追い風と言えることから、課題の解決を各地域が考えていく際に、この流れをうまく捉えていくことも必要です。

課題（社会）

暮らしの環境を良くして 集落を次世代につなぎたい

暮らしの環境を良くするためには、農地を保全し、
獣害などの解消が必要。



課題（人）

1人1人の負担を 軽くしたい

集落機能を維持し、農業を継続するには、地域を管理する人手を確保することが必要。

課題（経済）

地域資源を活かし 収入を得たい

農業の収益性を向上させるため、
地域資源の価値を見出し、
収入に変えていく力が必要。

5. 本手引きにおける中山間地域が目指す姿

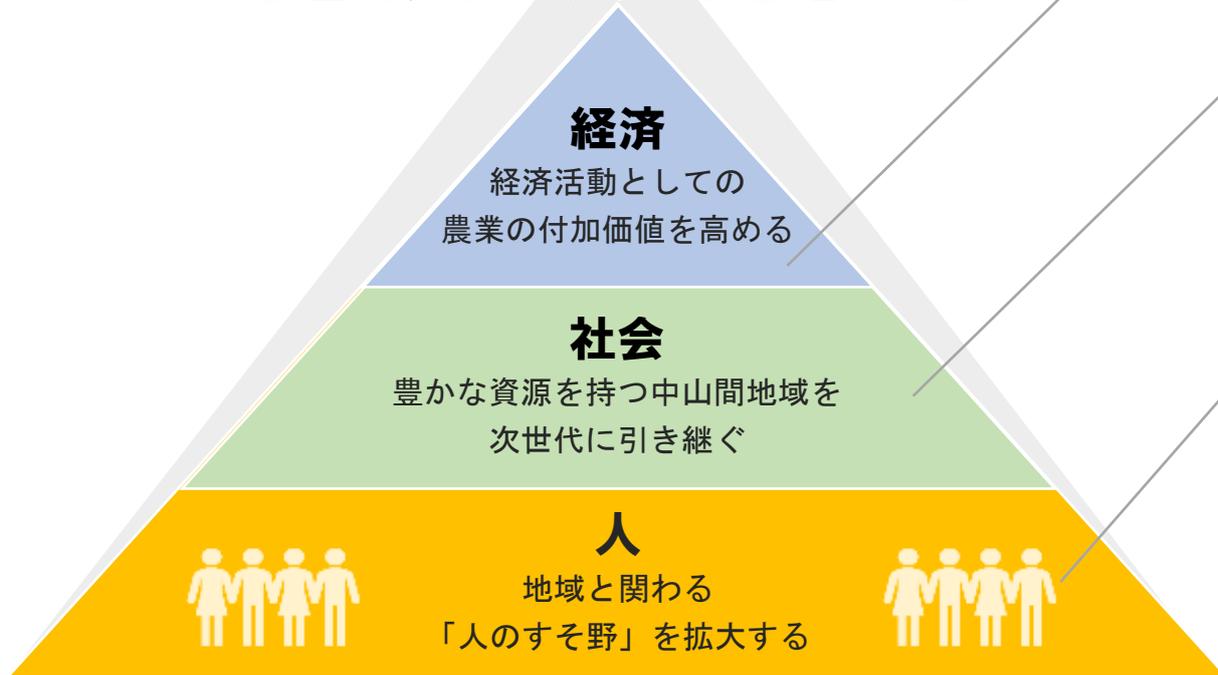
中山間地域は、食料の供給だけでなく、豊かな自然や景観を有し人々の憩いの場となると共に、水田は天然のダムとして下流の洪水防止、水源涵養に貢献するなど、様々な多面的機能（※）を有し、極めて重要な役割を担っています。この多面的機能は、中山間地域での農林業を含めた人々の営みが継続することによって発揮されるものです。

このことから、本手引きでは、「中山間地域での人々の営みが継続され、多面的機能が未来に引き継がれる」ことを目指す姿とします。

また、この目的の達成のために、先にみた中山間地域での課題に対応し、地域と関わる「人のすそ野」を拡大する「人」の視点、豊かな資源を持つ中山間地域を次世代に引き継ぐ「社会」の視点、経済活動としての農業の付加価値を高める「経済」の視点を設定します。

この三つの視点のもとに、それぞれを達成するための「中山間地域の10の振興策」を構成します。

人々の営みが継続され 多面的機能が未来に引き継がれる



※多面的機能とは：「国土の保全、水源の涵養（かんよう）、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承等、農村で農業生産活動が行われることにより生ずる、食料その他の農産物の供給の機能以外の多面にわたる機能」のこと。

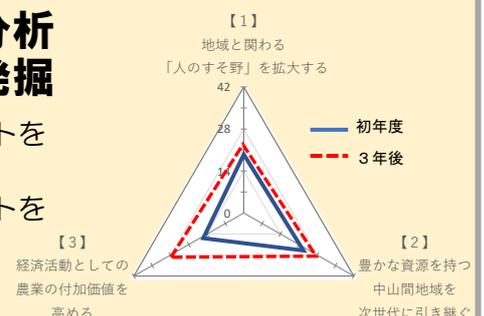
地域での話し合いから始まる

地域で話し合うことで、地域にあった振興策を見つけ、協力して活動することができます。この手引きは地域の方々との話し合いの際、参考にされることを想定しています。



地域の現状分析 地域資源の発掘

地域現状分析シートを使って課題を共有
地域資源発掘シートを使って資源の確認
などツール活用



中山間地域の10の振興策

経済 経済活動としての農業の付加価値を高める

振興策 7
担い手に農地を
集める

担い手を
確保する



振興策 8
コストを下げる
(省力化・低コスト化)

生産コストが
下がる



振興策 9
収益の上がる
作物を生産する

収益が
上がる



振興策 10
新たな収入源を
つくる

所得が
上がる



社会 豊かな資源を持つ中山間地域を次世代に引き継ぐ

振興策 4
住み続ける条件を整える

いつまでも暮らせる



振興策 5
近隣集落と連携する

協力しあう人が増える



振興策 6
農地の使い方を変える

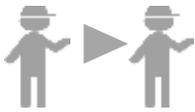
農地を荒らさず活用できる



人 地域と関わる「人のすそ野」を拡大する

振興策 1
農地を守る人を確保する

次の時代も
農地が活用される



振興策 2
一緒に支える人を受け入れる

地域を支える人が
増える



振興策 3
地域に関わる人を増やす

多様な形の応援者(ファン)
が増える



地域での振興策の
話し合いで
事例集・制度紹介
の活用

振興策ごとの事例集

滋賀県内の事例を中心に
80を超える事例から
地域にあった具体的な
振興策を検討

役立つ制度紹介

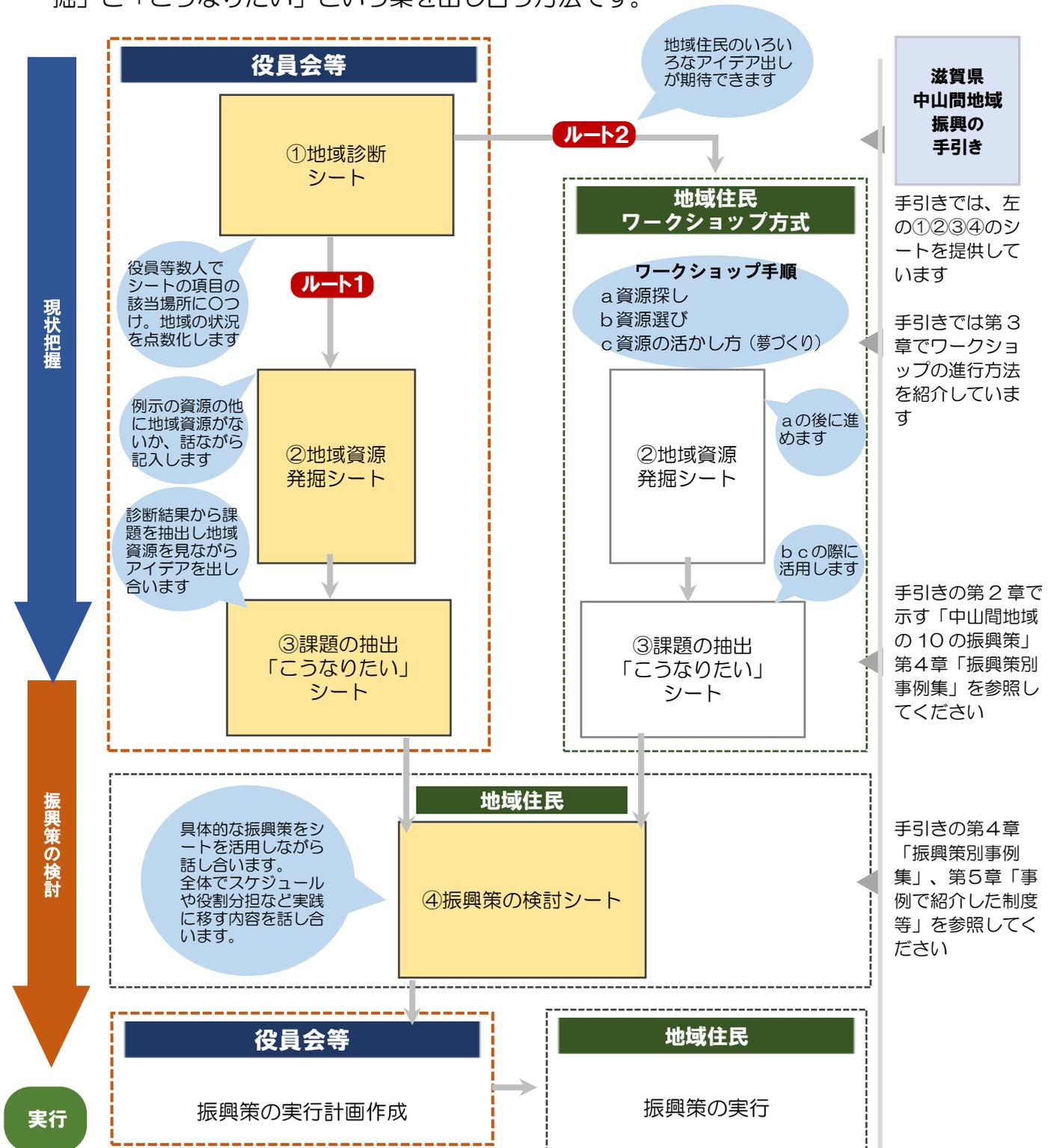
中山間地域の振興に有効な
事例で紹介された制度等の
概略を紹介

6. 手引きの使い方

本手引きでは、振興策の検討を助ける①～④のシートを提供しています。

振興策検討の中心は、「③こうなりたい」と「④振興策の検討」のシートですが、その前に地域の状況を把握する「①地域診断」「②地域資源発掘」のシートを有効に活用していただくことを薦めています。

話し合いの進め方は、地域の状況に応じた2つのルートを紹介します。ルート1は、**役員会が「こうなりたい」という案を地域住民に提示**して、振興策の検討を進めます。ルート2は、**住民と一緒に「ワークショップ」方式を取り入れた「地域資源の発掘」と「こうなりたい」という案を出し合う**方法です。



役員会等で進めるルート1で、シート①～④を使う進め方を以下にまとめます。

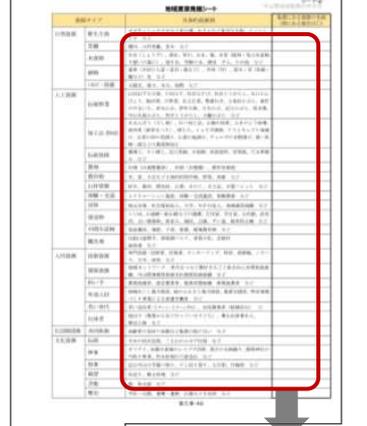
①地域診断シート



役員会数名で、1人が書記を務めます。3つのテーマの診断シートを読み上げながら、該当する選択肢に○をつけます。各シートが終わるたびに、最下段に得点の合計値を記入します。(レーダーチャート用紙にも合計値を記録します。)



②地域資源発掘シート



役員会数名で、1人が書記を務めます。5つの資源タイプごとに具体的な資源の例示がシートには示してあります。資源タイプを読み上げながら、まずは、そこに地域にあるものが記載されている場合は、その資源名の上に○をし、ない場合は右列空欄に記入します。



③課題の抽出「こうなりたい」シート

③課題の抽出・「こうなりたい」シート

テーマ	採点	課題	こうなりたい
地域に関わる「人その人」を拡大する	42		
豊かな資源を持つ中山間地域を次世代に引き継ぐ	42		
経済活動としての農業の付加価値を高める	42		

役員会数名で、1人が書記を務めます。①の診断結果をシートに記入し、得点の少ないテーマから順に何が要因で低いのか話し合い、課題を抽出します。また、②の地域資源と手引きの第2章振興策や第4章事例集を見て、活用できる資源と振興策から、「こうなりたい」と思う事をシートの右列に記入します。



④振興策の検討シート

振興策の検討シート

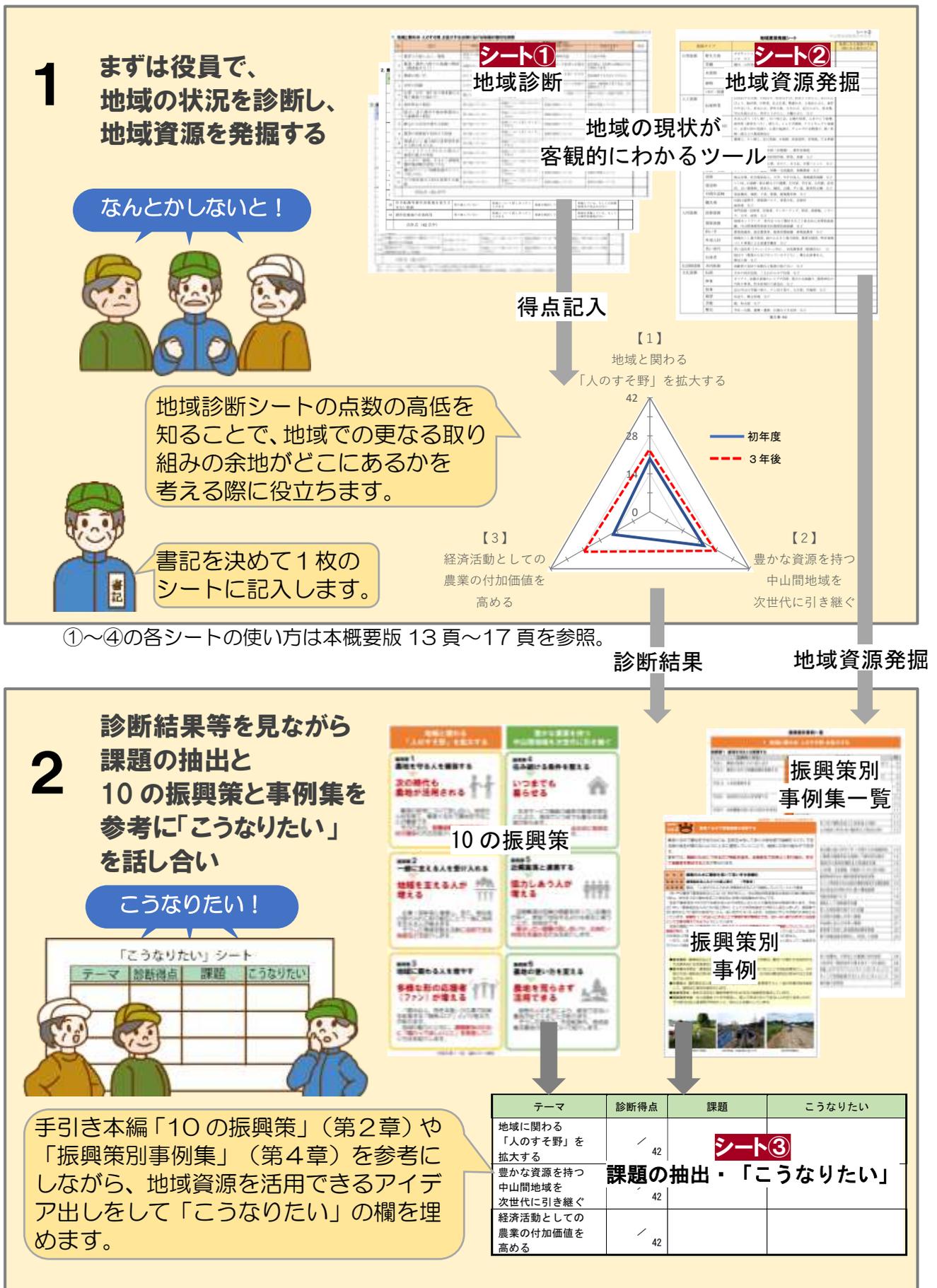
振興策の策定	滋賀県の中核的振興策を策定する
振興策の策定	中山間地域振興策の策定

役員会は③の検討を踏まえ、あらかじめ④振興策の検討シートにたたき台を作成し、住民会議で提案します。その際に手引きの第5章も参考にします。住民会議では、①や②の結果も紹介し、たたき台の内容について、みんなで取り組む上での意見を出し合います。具体的な取り組みにつなげられるよう、役割分担やスケジュールについても話し合います。



この時点で行政や有識者に助言を求めることも有効です

住民向け簡易版では以下の1⇒4の順で手引きの活用を進めるよう紹介しています。



本概要版 18 頁からの「中山間地域の 10 の振興策とその方法の概要」、資料 1～3 頁の「振興策別事例一覧」を参照。

※地域資源や課題等が明確な地域では、2 から始めることも可能です。

3 具体的な振興の 取り組みを話し合う

みなさんに提案して
やってみよう！



手引き本編第5章
「事例で紹介した
制度等」も参考に
しながら、取組の
具体的な内容を話し
合って埋めます。

実践する振興策	農業体験等の参加者と地域の課題を共有
具体的内容	〇〇大根保存プロジェクト：農業体験会
活用する資源	〇〇大根
実行するために必要なこと	ターゲットである〇〇に開催趣旨と体験に来てもらう、受け入れのため、 シート④ 準備。体験者との 振興策の検討 がための〇
実施体制・ネットワーク	〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、
活用できる制度	〇〇〇
継続性 スケジュール	5年間は開催し、関係人口の定着を図る 〇年〇月から実践に向け、事業計画作成
事業費 (費用項目)	〇〇〇〇円 (〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇
目標	継続して応援してくれる人 5年後
参考になる事例	〇〇〇

行政や外部有識者等の意見
〇〇大学〇〇先生から、体験会後のつながりを保ち育みたいとのアドバイスあり。

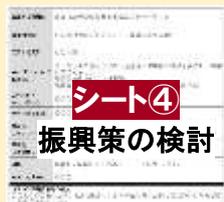
本概要版 21 頁「事例で紹介した制度等」を参照

4 地域で話し合い 振興策を 取りまとめる

みんなでまとめる



この時点で
行政や有識者の
助言を求める
ことも有効です。



ワークショップ方式-本編第3章-10~12 頁
ワークショップ方式で話し合いを進める方法も
紹介しています！

ワークショップ方式を導入する場合、
1~2をワークショップ形式で、
その結果を踏まえ、3は役員で検討し、
4はみんなで話し合います。

行政担当者の手引き活用におけるポイント

行政担当者は、以下の項目に留意して手引き活用を進めてください。



ポイント1: まずは地域診断シートを活用することを薦める

地域診断シートは、14項目×3テーマの項目で状況を手軽に把握できるとともに、内容は本手引きが紹介する振興策の方法にあうように設定されています。

そのため、点数が入らなかった項目をどうしたら点数が入るような取組になるのかを、手引書を使って助言することができます（簡易版にもシートを掲載しています）。

人材発掘の提案

地域資源発掘シートを作成する際に、人的資源として「他出子」についても話題を提供し、地域の担い手としての展開について、話し合いをするきっかけを作ってください。（事例39、40、及び本編第3章12頁のコラム参照）



ポイント2: 事例集一覧から適合する振興策のあたりをつける

地域診断や地域資源発掘の結果を踏まえ、課題の抽出と「こうなりたい」シートを整理する際に、10の振興策のどの方法がよいかを決めかねる場合は、第4章の振興策別事例集の事例一覧を見ることを薦めてください（簡易版にも一覧を掲載しています）。

事例の特徴は取組概要に表現されているため、具体的な活動内容を想像でき、参考になる事例を見つけやすくしています。



ポイント3: 外部有識者等の紹介

本手引きを活用する地域には、外部有識者や行政職員などの第三者の意見を取り入れることを地域の方に提案して、人材のマッチングを進めてください。

手引きでは、「④振興策の検討シート」を取りまとめる際に、第三者の意見を取り入れることを提案しています。



ポイント4: 事例を紹介して振興策のイメージを共有する

地域全体での話し合いでは、3で役員が検討・提案する振興策をイメージしやすいよう、参考にした事例や活用できる制度などの情報を、はじめの方で伝えましょう。

ポイント5: ワークショップ方式の提案

手引きの中では、第3章4（本概要版の参考2）で、地域住民によるワークショップ方式を取り入れる方法も提案しています。地域資源の発掘などに多くの方が参加するため、充実した成果が期待されることから、ワークショップ方式の取り入れも地域の方に提案してください。

①地域診断シートの使い方

このシートで3つの展開方向ごとに地域の取組状況をチェックしていくことで客観的な地域診断をすることができます。

役員等数名で現状を確認しながら、作業することを想定しています。(次頁の評価項目参照)

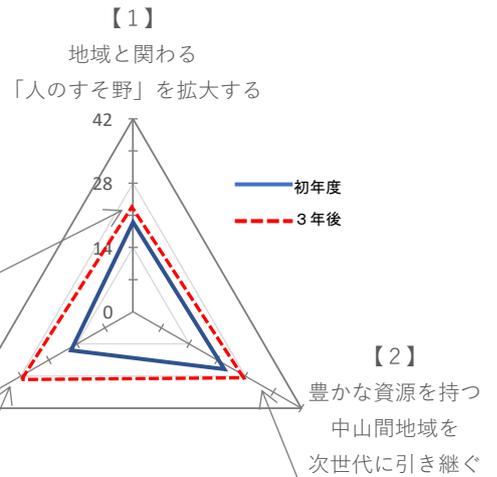
地域診断シートの特徴

- シートがあればすぐに診断できる
(14問×3分野の状況を記入し3分野ごとに合計点を計算)
- 定期的に診断すれば、地域の変化が数字で比較できる

1. 地域と関わる「人のすそ野」を拡大する分野における地域の現状を診断

No.	項目	取組が得意な分野	取組が得意な分野	取組が得意な分野	取組が得意な分野	得点
1	集落での話し合い、集議	集落での話し合いが頻りに行われている	集落での話し合いが頻りに行われている	集落での話し合いが頻りに行われている	集落での話し合いが頻りに行われている	
2	農業・農村に関する組織の構築(農業組合など)	組織がない	組織があるが弱い	組織があるが強い	組織があるが非常に強い	
3	農業の担い手	担い手が少ない	担い手がやや多い	担い手が多い	担い手が非常に多い	
4	女性の活躍	あまりない	女性が徐々に活躍している	女性が活躍している	女性が非常に活躍している	
5	企業・大学・NPO・法人等と農業者団体と連携の取組	取組がない	取組がややある	取組がある	取組が非常にある	
6	森林保全の取組	取組がない	取組がややある	取組がある	取組が非常にある	
7	障がい者の雇用や福祉事業等との連携の取組	取組がない	取組がややある	取組がある	取組が非常にある	
8	観光から活性化を志す取組	取組がない	取組がややある	取組がある	取組が非常にある	
9	農業の後継者を育成する取組	取組がない	取組がややある	取組がある	取組が非常にある	
10	地域おこし協力隊の活用や外部の人材の受け入れ	取組がない	取組がややある	取組がある	取組が非常にある	
11	フェイスブックやからから発信など地域の魅力の発信	取組がない	取組がややある	取組がある	取組が非常にある	
12	たんばのこ事業、やまのこ事業等農林業体験学習を受け入れ	取組がない	取組がややある	取組がある	取組が非常にある	
13	障がい者ボランティア等農林業ボランティアを受け入れ	取組がない	取組がややある	取組がある	取組が非常にある	
14	その他外部の人材を活用する取組	取組がない	取組がややある	取組がある	取組が非常にある	
合計点 (42点中)						

地域診断結果をレーダーチャートで表示



1 地域と関わる「人のすそ野」を拡大する

【3】
経済活動としての農業の付加価値を高める

【2】
豊かな資源を持つ中山間地域を次世代に引き継ぐ

3. 経済活動としての農業の付加価値を高める分野における地域の現状を診断

No.	項目	取組が得意な分野	取組が得意な分野	取組が得意な分野	取組が得意な分野	得点
1	農産物の生産性	生産性が低い	生産性がやや高い	生産性が高い	生産性が非常に高い	
2	農産物の付加価値	付加価値が低い	付加価値がやや高い	付加価値が高い	付加価値が非常に高い	
3	農産物の流通	流通が弱い	流通がやや強い	流通が強い	流通が非常に強い	
4	農産物の加工	加工が少ない	加工がやや多い	加工が多い	加工が非常に多い	
5	農産物の輸出	輸出が少ない	輸出がやや多い	輸出が多い	輸出が非常に多い	
6	農産物の消費	消費が少ない	消費がやや多い	消費が多い	消費が非常に多い	
7	農産物の貯蔵	貯蔵が少ない	貯蔵がやや多い	貯蔵が多い	貯蔵が非常に多い	
8	農産物の販売	販売が少ない	販売がやや多い	販売が多い	販売が非常に多い	
9	農産物の流通	流通が弱い	流通がやや強い	流通が強い	流通が非常に強い	
10	農産物の加工	加工が少ない	加工がやや多い	加工が多い	加工が非常に多い	
11	農産物の輸出	輸出が少ない	輸出がやや多い	輸出が多い	輸出が非常に多い	
12	農産物の消費	消費が少ない	消費がやや多い	消費が多い	消費が非常に多い	
13	農産物の貯蔵	貯蔵が少ない	貯蔵がやや多い	貯蔵が多い	貯蔵が非常に多い	
14	農産物の販売	販売が少ない	販売がやや多い	販売が多い	販売が非常に多い	
合計点 (12点中)						

3 経済活動としての農業の付加価値を高める

2. 豊かな資源を持つ中山間地域を次世代に引き継ぐ分野における地域の現状を診断

No.	項目	取組が得意な分野	取組が得意な分野	取組が得意な分野	取組が得意な分野	得点
1	水資源の確保	確保が弱い	確保がやや強い	確保が強い	確保が非常に強い	
2	森林資源の確保	確保が弱い	確保がやや強い	確保が強い	確保が非常に強い	
3	農産物の確保	確保が弱い	確保がやや強い	確保が強い	確保が非常に強い	
4	観光資源の確保	確保が弱い	確保がやや強い	確保が強い	確保が非常に強い	
5	文化資源の確保	確保が弱い	確保がやや強い	確保が強い	確保が非常に強い	
6	自然環境の確保	確保が弱い	確保がやや強い	確保が強い	確保が非常に強い	
7	歴史文化の確保	確保が弱い	確保がやや強い	確保が強い	確保が非常に強い	
8	伝統的建造物の確保	確保が弱い	確保がやや強い	確保が強い	確保が非常に強い	
9	伝統的工芸品の確保	確保が弱い	確保がやや強い	確保が強い	確保が非常に強い	
10	伝統的食文化の確保	確保が弱い	確保がやや強い	確保が強い	確保が非常に強い	
11	伝統的祭りの確保	確保が弱い	確保がやや強い	確保が強い	確保が非常に強い	
12	伝統的行事の確保	確保が弱い	確保がやや強い	確保が強い	確保が非常に強い	
13	伝統的習慣の確保	確保が弱い	確保がやや強い	確保が強い	確保が非常に強い	
14	伝統的風俗の確保	確保が弱い	確保がやや強い	確保が強い	確保が非常に強い	
合計点 (12点中)						

2 豊かな資源を持つ中山間地域を次世代に引き継ぐ

3つのテーマの診断項目（4段階で回答）

1. 地域と関わる「人のすそ野」を拡大する

1	集落での話し合い、頻度	8	都会から定住を進める取組
2	農業・農村に関する組織の構成（農業組合など）	9	農業の後継者を育成する取組
3	農業の担い手	10	地域おこし協力隊の活用等外部の人材の受け入れ
4	女性の活躍	11	フェイスブックやかかわら版など地域の魅力の発信
5	企業・大学・NPO 法人等多様な主体と集落との関わり	12	たんぼのこ事業、やまのこ事業等農林業体験学習受け入れ
6	森林保全の取組	13	棚田ボランティア等農林業ボランティア受け入れ
7	障がい者の雇用や福祉事業所との連携等の取組	14	その他外部の人材を活用する取組

2. 豊かな資源を持つ中山間地域を次世代に引き継ぐ

1	近隣集落との共同の拠点（スーパー、病院など複数サービス機能）を設置	8	用排水路等を長持ちさせるための点検・補修
2	高齢者への福祉活動コミュニティサロンなど集落内の談話の場	9	子供達等、次世代育成の取組
3	獣害対策	10	近隣集落と連携した地域づくり活動などの取組
4	伝統的な祭り・文化・芸能の保存	11	農業機械オペレーターの融通など営農面での近隣集落との連携・統合の検討
5	集落内の環境美化活動・実施	12	地域の利便性向上（交通・買い物など）のための取組
6	若者、女性など地域住民の草刈、泥上げ等共同活動への関わり	13	作目転換等耕作放棄地を発生させない取組
7	農道・用排水路法面の草刈、維持補修	14	耕作放棄地の有効利用

3. 経済活動としての農業の付加価値を高める

1	農地集積にあたり、農地の受け手の選定に対する地主の意識	8	伝統野菜の作付
2	耕作者間での利用権を交換する等、担い手ごとのエリア分け	9	「環境こだわり農産物」、棚田米等ブランド化の推進
3	営農組合等の組織化	10	転作の有無（ソバ、麦、大豆等）
4	（水路更新、畔抜き等）担い手が耕作しやすい条件整備	11	水田での野菜・果樹等高収益作物への転換
5	ほ場整備等生産基盤の強化	12	農産物加工、直売所等の6次産業化の取組
6	暗きょ排水等乾田化	13	体験メニュー提供や、農家レストラン農泊などの取組
7	自動田植機、自動草刈機、ドローン等スマート農業、林業の導入	14	間伐材のチップ化など、その他の地域資源を活用した取組

②地域資源発掘シートの使い方

このシートで5つの資源タイプごとに具体的資源例を参考にチェックしていくことで地域の資源を発掘します。役員等数名で作業する場合には、各自シートを見ながら話し合って1人が記入して作成します。

地域住民でワークショップをする場合は、数人グループに分かれ、各グループで作業して、後でグループの資源を合わせていきます。

地域資源発掘シートの特徴

- シートがあればすぐに地域資源の発掘ができる
(資源タイプごとに代表的な例示があり、それに丸をするか、固有の資源は欄に記入する)
- 振興策事例集に示された「活用した地域資源」と照らし合わせてヒントが見つかる。

地域資源発掘シート (資源のタイプ)

資源タイプ	資源タイプ小項目
自然資源	野生生物、景観、水資源、植物、風味 [※] 資源
人工資源	伝統野菜、加工品(農林水産)、伝統技術、農地、農作物、山村資源、体験・交流、団体、建造物、中間生産物、観光地
人的資源	技術資源、関係資源、担い手、外部人材 若い世代、出身者
社会関係資源	共同扶助
文化資源	伝説、神事、祭事、風習、芸能、歴史

地域資源発掘のチェックの仕方 (イメージ)

例示にあるものは○、ないものは右の欄に記入

人工資源	伝統野菜	山田ねずみ大根、下田なす、杉谷なすび、杉谷とうがらし、水口かんびょう、鮎河菜、口野菜、北之庄菜、豊浦ねぎ、小泉紅かぶら、赤花のやまいも、赤丸かぶら、伊吹大根、万木かぶら、近江かぶら、坂本菊、守山矢船かぶら、弥平とうがらし、大蔵かぶら など	ヨモギ
	加工品 (農林産)	あまんぼう(干し柿)、むべ加工品、山椒の佃煮、ふきのとう味噌、政所茶(新茶まつり)、橋もち、ミョウガ漬物、ナスとキュウリ漬漬け、山菜の卵の花漬け、山菜の塩漬け、チヨロギの甘酢漬け、糰・味噌・酒などの農産物加工	梅干し

③課題の抽出・「こうなりたい」シートの使い方

このシートは、地域診断シートの得点を記入し、点数の高低で地域での更なる取組の余地がどこにあるかを考える際に役立ちます。

得点の低いテーマを中心に、その項目の取組を進めるのには何が課題なのかを、地域診断シートの結果と見比べながら話し合いを行い、課題を抽出していきます。

また、その課題を解決してどうなりたいのかを、手引きの「第2章 中山間地域の10の振興策」や「第4章 振興策別事例集」を参考にしながら、地域資源発掘シートに記載された地域資源の活用も踏まえてアイデア出しをして「こうなりたい」の欄を埋めていきます。（本概要版 18 頁以降にも概要あり）

③課題の抽出・「こうなりたい」シート

テーマ	診断得点	課題	こうなりたい
地域に関わる「人のすそ野」を拡大する	42		
豊かな資源を持つ中山間地域を次世代に引き継ぐ	42		
経済活動としての農業の付加価値を高める	42		

診断結果の低いテーマは何が要因となっているか課題を整理します。

課題解決するための振興策を探り、その事例と、発掘シートの資源を見ながらできそうな取組を出し合います。

①地域診断シート

②地域資源発掘シート

滋賀県中山間地域振興の手引き

④振興策の検討シートの使い方とその後

このシートは、③の課題の抽出・「こうなりたい」シートの内容を実践に移せるように検討し、地域が取り組む振興策としてまとめていくためのシートです。

あらかじめ役員会でたたき台を作成して、それをもとに住民が集まった場所での検討をイメージしています。たたき台を作成する際には、手引き「第5章 事例で紹介した制度等」も参考に、検討します。(本概要版21頁に事例で紹介した制度等一覧あり)

地域住民で検討することで、役割分担など体制についても合意を得ながら進めることができます。また、具体的なスケジュールも話し合います。

④ 振興策の検討シート

実施する振興策	農業体験等の参加者と地域の課題を共有する
具体的内容	〇〇大根保存プロジェクト：農業体験会の開催
活用する資源	〇〇大根
実行するために必要なこと	ターゲットである〇〇に開催趣旨と体験会の情報を発信し、体験に来てもらう。 受け入れのための体制準備。 体験者との関係が次につながるための〇〇〇を提供する。
実施体制・ネットワーク	〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、
活用できる制度	〇〇〇
継続性 スケジュール	5年間は開催し、関係人口の定着を図る。 〇年〇月から実践に向け、事業計画作成、補助金申請(〇月)・・
事業費 (費用項目)	〇〇〇〇円 (〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇)
目標	継続して応援してくれる人 5年後：〇〇人
参考になる事例	〇〇〇
行政や外部有識者等の意見 〇〇大学〇〇先生から、体験会後のつながりを保ち育てるために〇〇〇をした方が良いとのアドバイスあり。	

この検討シートで地域の振興策がある程度決まってきた段階で、**行政や有識者等の第三者に助言を求めるとも有効**です。活用できる制度の最新情報や、連携できる団体情報など、積極的に聞いてみます。

そのうえで、地域の振興策の実施計画として取りまとめます。



7. 中山間地域の 10 の振興策とその方法の概要

10 の振興策と各方法の概要から取り組んでみたい振興策をチェックしましょう。

人 地域と関わる「人のすそ野」を拡大する

振興策 1 農地を守る人を確保する

次の時代も農地が活用される



集落の将来について話し合い、地域の人材を育て、集落ぐるみで農地を守ることが重要です。
そのための、営農組織の運営方法や人材の確保の方法を紹介します。

方法 1
集落の将来について話し合う



方法 3
人材を確保する



方法 5
地域農業の担い手に女性の力を活かす



方法 2
集落ぐるみで営農組織を運営する



方法 4
地域を支える人材を育てる



振興策 2 一緒に支える人を受け入れる

地域を支える人が増える



企業・団体等と連携し、また、移住者の受け入れに取り組むことで一緒に地域を支える人が増えます。
そうした環境を整える際に活用できる制度などを紹介します。

方法 1
企業・団体等と連携する



方法 3
農福連携に取り組む



方法 5
移住者を支える仕組みをつくる



方法 2
「やまの健康」に取り組む



方法 4
多様な人材を活用する



方法 6
協働する人を受け入れ、思いを伝える



振興策 3 地域に関わる人を増やす

多様な形の応援者（ファン）が増える



「観光以上、移住未満」の立場で地域を応援する「関係人口^{*}」という考え方があります。

地域の魅力とともに、課題解決のために「関わってほしいこと」を発信していく方法を紹介합니다。

方法 1
農業体験等の参加者と地域課題を共有する



方法 2
クラウドファンディングなどの応援者を集める仕組みを活用し地域の取組を伝える



方法 3
中山間地域の魅力を発信する



^{*}関係人口：移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々を指す。

社会 豊かな資源を持つ中山間地域を次世代に引き継ぐ

振興策4 住み続ける条件を整える

いつまでも
暮らせる



生活サービス機能の確保や獣害対策などにより、地域でいつまでも暮らせる環境が保ちます。

住み続ける条件を整えるために有効な地域での取組を紹介します。

方法1
生活サービス機能等を集約した「小さな拠点」を形成する



方法3
獣害対策に取り組みくらしを守る



方法5
美しい風景・景観を守り育てる



方法2
暮らしのお困りごとに対処する



方法4
コミュニティを強化する



方法6
学校と連携して地域の意識を高める



振興策5 近隣集落と連携する

協力しあう人が
増える



近隣集落は同様の課題を持っている場合が多く、単独で対処するよりも相互に補うことが、効率的です。

解決したい課題の話し合いや、広域化・共同化を進める方法を紹介します。

方法1
共通する課題で近隣集落と連携する



方法2
日本型直接支払制度の取組を広域化する



方法3
学区単位でコミュニティ組織をつくる



方法4
棚田地域振興法の仕組みを利用する



振興策6 農地の使い方を変える

農地を荒らさず
活用できる



獣害や人手不足により、維持できない農地が出てくる場合があります。

そうした場合の、作目転換や、復旧困難な農地の活用について紹介します。

方法1
作目の転換：
山菜等を植える



方法2
作目の転換：
果樹を栽培する



方法3
農地を獣害対策の緩衝帯・集落景観用地として活用する



方法4
復旧が困難な農地の活用を図る



経済 経済活動としての農業の付加価値を高める

振興策 7 担い手に農地を集める

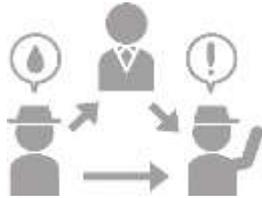
担い手を確保する



将来の地域農業の姿を話し合い、担い手へ農地の集積を進めることが重要です。そうした環境づくりに活用できる制度などを紹介します。

方法 1

農地中間管理機構を活用する



方法 2

農業法人の参入を促す



振興策 8 コストを下げる（省力化・低コスト化）

生産コストが下がる



生産基盤を強化すれば省力化が実現します。また急速に技術が進んでいるスマート農業・林業は、中山間地域での活用も期待されます。

こうした技術等について、中山間地域での活用や留意点等を紹介します。

方法 1

生産基盤を強化する



方法 2

スマート農業※を導入する



方法 3

スマート林業を導入する



方法 4

ドローンなどを活用した作業代行サービスを利用する



※スマート農業：ロボット技術や情報通信技術(ICT)を活用して、省力化・精密化や高品質生産を推進する新たな農業のこと。

振興策 9 収益の上がる作物を生産する

収益が上がる



獣害に強く、省力的に栽培でき、販路がある作物であれば、担い手が少ない地域でも農地を有効活用できます。

各地でチャレンジされている取組を紹介します。

方法 1

収益の上がる作物に転換する



方法 2

水田を畑地化・汎用化するための基盤整備を行なう



振興策 10 新たな収入源をつくる

所得が上がる



魅力的な地域資源を活かして収入を得ている集落は、来訪者をひきつけることができます。

新たな収入源としての6次産業化などの方法を紹介します。

方法1

6次産業化による
新たな事業を展開
する



方法2

地域資源を活かした食事
や体験交流プログラムを
提供する



方法3

農泊に
取り組む



方法4

森林空間を活かした
新たな仕事をつくる



事例で紹介した制度等

第5章 1 事例で紹介した制度の概要を示す手引き本編の該当頁は以下の通りです。

資料 1-1	中山間地域等直接支払制度	第5章-3
資料 1-2	しが農業女子 100 人プロジェクト	第5章-4
資料 2-1	しがのふるさと支え合いプロジェクト	第5章-5
資料 2-2	「やまの健康」の取組	第5章-6
資料 2-3	農福連携（滋賀県の取組）	第5章-7
資料 2-4	特定地域づくり事業協同組合制度	第5章-8
資料 2-5	地域おこし協力隊	第5章-9
資料 2-6	緑のふるさと協力隊	第5章-10
資料 3-1	関係人口	第5章-11
資料 4-1	小さな拠点における多機能型の取組を持続的に行うための組織づくり	第5章-12
資料 4-2	「獣害に強い集落環境点検」実施の手引き	第5章-13
資料 4-3	近隣景観形成協定	第5章-15
資料 5-1	棚田地域振興法	第5章-16
資料 6-1	荒廃農地を中山間地域等直接支払制度協定農用地へ	第5章-17
資料 7-1	農地中間管理機構	第5章-18
資料 9-1	FOEAS（地下水位制御システム）	第5章-19
資料 10-1	農泊	第5章-20

参考1 振興策別事例一覧

3つの方針の10の施策毎に方法を抽出し、該当する事例を紹介しています。
 気になる振興策の事例から具体的な取組を確認しましょう。

1 地域と関わる「人のすそ野」を拡大する

頁番号は手引き本編第4章

振興策1 農地を守る人を確保する

方法	No	事例概要	頁
方法1 集落の将来について話し合う	1	アンケートを実施し集落における持続可能な体制を話し合う	6
方法2 集落ぐるみで営農組織を運営する	2	継続のために無駄を省いて担い手を組織化	7
	3	作業負担の偏りをなくし担い手を育てる共同の体制づくり	8
方法3 人材を確保する	4	年代別グループ制による集落営農組織の多角化	9
	5	繁忙期に人手不足をカバーする人材派遣・1次産業特化型求人サイト	9
方法4 地域を支える人材を育てる	6	農業の原点から最新の農業まで習得できる環境づくり	10
	7	講習会開催で森林保全の技術を普及	10
方法5 地域農業の担い手に女性の力を活かす	8	親元就農	11
	9	独立就農	11
	10	女性役員（世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策）	12
	11	女性草刈りチームの結成（世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策）	12

振興策2 一緒に支える人を受け入れる

方法1 企業・団体等と連携する	12	地域貢献先を探す企業に届くボランティア受け入れ情報発信	13
	13	集落にある団体に集落の課題を伝え協働して解決を目指す	14
	14	企業がSDGsの観点から耕作放棄防止の取組を支援	14
方法2 「やまの健康」に取り組む	15	協議会を結成し人口対策、生活基盤、特産品づくりに取り組む	15
	16	8つの集落の活動団体を中心に森林資源を保全活用	15
方法3 農福連携に取り組む	17	障がい者の「働きたい」の希望をかなえ地域の課題を解決する農福連携	16
	18	ノウハウがない部分は地元が補い共に働く農福連携	17
方法4 多様な人材を活用する	19	マルチワークが可能な環境づくり	18
	20	特定地域づくり事業として労働者を派遣 行政	18
方法5 移住者を支える仕組みをつくる	21	ターゲットを設定した移住者の受け入れ活動	19
	22	移住者側から見た地域で就農しやすい環境	20
	23	移住者側から見た地域になじみやすい環境	21
方法6 協働する人を受け入れ、思いを伝える	24	地域おこし協力隊を経て定住し地域資源活用を実践	22
	25	地域おこし協力隊で林業技術を習得し、定住して起業 行政	23

振興策3 地域に関わる人を増やす

方法1 農業体験等の参加者と地域課題を共有する	26	集落全体で話し合いを重ね、大学生との連携に取り組む	24
	27	森のメープルでつながる「動きながら考えるメープル部会」	24
方法2 クラウドファンディングなどの応援者を集める仕組みを活用し地域の取組を伝える	28	ふるさと納税を活用したクラウドファンディングにチャレンジ 行政	25
	29	クラウドファンディング活用応援プロジェクトにチャレンジ 行政	25
方法3 中山間地域の魅力を発信する	30	手軽な方法で地域の魅力を発信	26

※ 行政 は、主に行政担当者向けの事例です。

2 豊かな資源を持つ中山間地域を次世代に引き継ぐ

振興策4 住み続ける条件を整える

方法	No	事例概要	頁
方法1 生活サービス機能等を集約した「小さな拠点」を形成する	31	廃校を活用し防災や医療、行政機能を兼ね備えた道の駅 行政	27
	32	人と人とのつながりの中で暮らしを支えるお手伝い	28
方法2 暮らしの困りごとに対処する	33	コミュニティ・カーシェアリングを導入	29
	34	住民有志で設置した集落内100円ショップ	29
	35	イノシシ侵入防止の目隠し資材(取り付け簡単!安価!効果はそこそこ)	30
方法3 獣害対策に取り組み暮らしを守る	36	サルにのんびり餌を食べさせない集落づくり	31
	37	サルの追い払いでのドローン活用の実験	32
	38	獣害に強い集落環境点検	33
	39	花植え活動で女性の参画、花見の会の開催で孫世代と交流	34
方法4 コミュニティを強化する	40	地区外在住者も自治会役員や神事の保存を担う	34
	41	隣接する新興住宅地と交流	34
	42	近隣景観形成協定を結び旧東海道沿いの景観を守る	35
方法5 美しい風景・景観を守り育てる	43	小学生に田植え稲刈り体験を提供	36
方法6 学校と連携して地域の意識を高める	44	学習田として活用	36

振興策5 近隣集落と連携する

方法1 共通する課題で近隣集落と連携する	45	学区内の担い手で法人を立ち上げ	37
	46	7つの法人が連携し集落営農法人の弱みを補完	38
	47	周辺の4つの集落で連携体制を構築	38
方法2 日本型直接支払制度の取組を広域化する	48	周辺の4つの集落営農で連携体制を構築し広域化	39
	49	土地改良区単位で広域化 行政	40
	50	「市」の単位で広域化 行政	40
方法3 学区単位でコミュニティ組織をつくる	51	小学校区ごとに地域運営組織(自治振興会)の立ち上げ 行政	41
方法4 棚田地域振興法の仕組みを利用する	52	指定棚田地域の指定を受け活動を展開 行政	42

振興策6 農地の使い方を変える

方法1 作目の転換：山菜等を植える	53	耕作放棄地でヨモギを栽培	43
	54	耕作放棄地でエゴマを栽培	43
方法2 作目の転換：果樹を栽培する	55	棚田の耕作放棄地でクルミ栽培	44
	56	柿の耕作放棄地でオリーブ栽培	44
方法3 農地を獣害対策の緩衝帯・集落景観用地として活用する	57	住民の健康づくりの場とすることで鳥獣害の緩衝帯形成	45
	58	田園の集落景観を維持する空間として保全管理	45
方法4 復旧が困難な農地の活用を図る	59	荒廃農地の活用	46

※ **行政** は、主に行政担当者向けの事例です。

3 経済活動としての農業の付加価値を高める

振興策7 担い手に農地を集める

方法	No	事例概要	頁
方法1 農地中間管理機構を活用する	60	個別経営体と集落営農型農業法人による話し合いで農地の集約化	47
	61	集落営農型農業法人の設立による集積	48
方法2 農業法人の参入を促す	62	観光名所の景観維持を目標に営農環境を整え担い手確保	49

振興策8 コストを下げる(省力化・低コスト化)

方法1 生産基盤を強化する	63	大区画化と用排水道路整備	50
	64	傾斜が急で湾曲の大きい地形での等高線区画の採用	51
	65	守る農地を決め軽トラックが通れる道づくり	51
方法2 スマート農業を導入する	66	GPS 機能付き田植え機を導入	52
	67	ラジコン草刈り機を導入	52
	68	ドローンによる薬剤散布	53
	69	中山間水田農業に有望なスマート農業技術	54
方法3 スマート林業を導入する	70	作業工程毎に見るスマート林業等の進化	55
方法4 ドローンなどを活用した作業代行サービスを利用する	71	スマート農業支援サービス育成プログラム	56

振興策9 収益の上がる作物を生産する

方法1 収益の上がる作物に転換する	72	ユウカリ栽培にチャレンジ	57
	73	マコモダケ栽培にチャレンジ	58
	74	リンドウ栽培にチャレンジ	58
方法2 水田を畑地化・汎用化するための基盤整備を行なう	75	水田の地下水位を制御し田畑転用が容易に「FOEAS」	59

振興策10 新たな収入源をつくる

方法1 6次産業化による新たな事業を展開する	76	市の花「ムラサキ」を栽培し化粧品に加工して販売	60
	77	地域資源のソバ・ダイコン・ヨモギを栽培し加工して販売	61
	78	果樹を育てジャムに加工して販売	62
	79	地元の産物を漬けものに加工して販売	62
方法2 地域資源を活かした食事や体験交流プログラムを提供する	80	在来種の「伊吹そば」等を土日祝限定で提供	63
	81	カプトムシを育てふれあい体験を提供	64
方法3 農泊に取り組む	82	自身の旧家を改修し囲炉裏の体験を提供	65
	83	移住者が借家を改修し味噌づくり体験などを提供	66
方法4 森林空間を活かした新たな仕事をつくる	84	木の駅プロジェクトで山資源をお金に変える	67

参考2 ワークショップ方式での課題整理

より多くの住民が地域づくりのために意見を交わすワークショップは、以下のようなメリットがあることから、**可能な場合は8頁のルート2で進めます**。

※ただし、この方式を進める場合は、新型コロナウイルス対策に十分留意し、状況によっては人数を限定して行うなど検討することが必要です。

ワークショップ方式で
②③シートを
つくろう！

- より多くの住民が地域づくりの課題を共有できる。
- より多くの住民で地域資源の発掘ができる。
- 他の住民の意見などを聞き、地域づくりへの意識が高まる。
- 地域資源の活用法や、地域課題解決に対してたくさんアイデアが期待できる。 など

ワークショップ
方式のメリット

②地域資源発掘シートと③課題の抽出「こうなりたい」シートをワークショップでつくる進め方

1日目

②地域資源
発掘シート

集落のメンバー、老若男女みんなが集まり話し合う

②地域資源発掘シートをみんなでつくる

思い出深い場所、美しい景色、お気に入りの場所、昔から食べている料理や食材、かつての作業や道具、お祭りや伝説、子どもの遊び、子どもたちに伝えたいことなど…思いつくままに、地域に「あるもの」を出しあいます。

できることなら、地域外の人にも同席してもらおうと、よその人からすると興味深く、魅力的に映ることなど気づかない価値を教えてください。

- 1) 各グループで「地域資源発掘シート」を見ながら、付せんに地域にあるものを書き込む。
- 2) 作業が終了後、各グループの結果を資源タイプごとに発表する。
- 3) 終了後、各グループの付せんに1枚の模造紙にまとめる。
※2日目の2)で活用する。

2日目

③課題の抽出
「こうなりたい」
シート

③課題を抽出し「こうなりたい」シートをみんなでつくる

- 1) 問題になっていることを出し合う
役員が実施した地域診断結果も踏まえて具体的な内容を付せんに出し合う。
- 2) 地域資源を活用することで解決できそうなアイデアを付せんに出し合う。
- 3) アイデアをまとめて「こうなりたい」の欄に記入する候補をまとめる。
- 4) グループの結果を発表し、全体で話し合う。
最後に実行したいアイデアの人気投票を行う。

テーマ	診断得点	課題	こうなりたい
地域に関わる「人のすそ野」を拡大する	42		
豊かな資源を持つ中山間地域を次世代に引き継ぐ	42		
経済活動としての農業の付加価値を高める	42		

ワークショップを スムーズに楽しく 進めるコツ！

準備

模造紙（グループ数）、付せん（7.5cm 四方程度・1人 15枚程度）
サインペン（参加者数分）、昔の地域の写真

体制 役割

- ・1グループ6人程度まで 参加者は30人程度までが運営しやすいです。
- ・全体の進行係1人、タイムキーパー1人
- ・各班にリーダー、タイムキーパー役、発表役、記録係（兼務可能）

※リーダーは進行役として活発に意見が出るよう話のきっかけを作る。
記録係：話し合いの中で出てきた「きらりと光る」意見を漏らさず記録する。

進め方 の ポイント

1) 地域に「あるもの」を出そう！

「今あるもの」のほかに、「思い出の中にありませんか？」「隠れている資源がありませんか？」と問いかけます。また、地域には住んでいないけれど「よく帰ってくる子ども世帯」なども資源と言えることから、人材資源として抽出・整理します。

2) 書き出した資源候補の「こんなところが面白い」

出てきた資源に「こんなところが面白い」と別の色の付せんに書いて追加してもらいます。資源探しには「否定的な意見」は厳禁！ 夢を膨らませるように楽しく進めます。

3) 付せんに資源タイプごとに整理する

資源タイプ毎に塊ができるように付せんを集め、集めた付せんにマジックで囲って、見出し（資源タイプ名）を書きます。

4) 時間を管理する

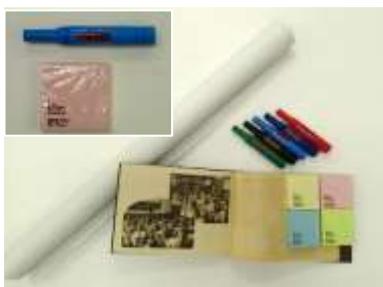
1回のワークショップは2時間程度とします。全体で発表は2～3分を目安にし、タイムキーパーが管理します。

5) 付せん記入が進まない人は代筆する

話ではアイデアを出すけれども、書かなければならないとなると手が進まなくなる参加者には、各グループの記録者が話を聞き取り、付せんに記入します。

上記は一般的な進め方を記載しておりますが、新型コロナウイルス対策のため、当面は下記のような配慮を検討してください。

- 参加人数、開催時間等は、上記に関わらず、最小限度としてください。
- グループ同士の間隔は広くとってください。
- 隣を向いて話すことはできる限り避け、発言は最小限にしてください。



模造紙・付せん
昔の写真・ペン



グループの話し合い



グループ発表

参考3 地域での話し合いで活用できるシート

シート①

中山間地域振興の手引き

1. 地域と関わる「人のすそ野」を拡大する分野における地域の現状を診断

No	項目	取組の程度 (該当するものに○)			得点
		取組の程度0 (0点)	取組の程度1 (1点)	取組の程度2 (2点)	
1	集落での話し合い、頻度	集落での話し合いはしていない	年に数回は実施	月に1回程度実施	月に数回実施
2	農業・農村に関する組織の構成 (農業組合など)	組織がない	耕作農家のみで構成	耕作農家と土地持ち非農家で構成	耕作農家、土地持ち非農家に加え非農家も参画
3	農業の担い手	担い手が少ない	担い手が少ない	現状維持できる担い手がある	現状維持できる担い手がある
4	女性の活躍	あまりない	女性が会合に参加している	女性が主体になった取組がある	女性の(農業組合等)役員、女性就農者がいる
5	企業・大学・NPO 法人等多様な主体と集落との関わり	関わりはない	関わりについて話し合ったことがある	関わりについて話し合ったことがある	関わりが高く、活動が定着している
6	森林保全の取組	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している
7	障がい者の雇用や福祉事業所との連携等の取組	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している
8	都会から定住を進める取組	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している
9	農業の後継者を育成する取組	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している
10	地域おこし協力隊の活用等外部の人材の受け入れ	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している
11	フェイスペインクやかわら版など地域の魅力の発信	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している
12	たんぼのこ事業、やまのこ事業等農林業体験学習受け入れ	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している
13	棚田ボランティア等農林業ボランティア受け入れ	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している
14	その他外部の人材を活用する取組	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している
合計点 (42点中)					

2. 豊かな資源を持つ中山間地域を次世代に引き継ぐ分野における地域の現状を診断

No	項目	取組の程度 (該当するものに○)			取組の程度3 (3点)	得点
		取組の程度0 (0点)	取組の程度1 (1点)	取組の程度2 (2点)		
1	近隣集落との共同の拠点 (スーパー、病院など複数サービス機能) を設置。	以前からない	取組について話し合ったことがある	設置の検討をしている	既に設置されている	
2	高齢者への福祉活動コミュニケーションなど集落内の談話の場	実施していない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している	
3	獣害対策	被害を放置	被害を認識しているが、対策ができていない	集落環境点検等を通じて対策を検討している	防護柵を整備するなど、集落ぐるみの被害対策を実施している	
4	伝統的な祭り・文化・芸能の保存	実施していない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している	
5	集落内の環境美化活動・実施	実施していない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している	
6	若者、女性など地域住民の草刈、泥上げ等共同活動への関わり	関わりはない	関わりについて話し合ったことがある	関わりについて検討している	関わりが高く、活動が定着している	
7	農道・用排水路法面の草刈、維持補修	実施していない	耕作者個々に任せている	集落の共同活動として年1回～数回実施	複数回の活動に非農家や若者も参加している	
8	用排水路等を長持ちさせるための点検・補修	実施していない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している	
9	子供達等、次世代育成の取組	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している	
10	近隣集落と連携した地域づくり活動などの取組	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している	
11	農業機械オペレーターの融通など営農面での近隣集落との連携・統合の検討	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している	
12	地域の利便性向上 (交通・買い物など) のための取組	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している	
13	作目転換等耕作放棄地を発生させない取組	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	実施している、もしくは放棄地発生の見込みはない	
14	耕作放棄地の有効利用	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している	取組を実施している、もしくは耕作放棄地がない	
合計点 (42点中)						

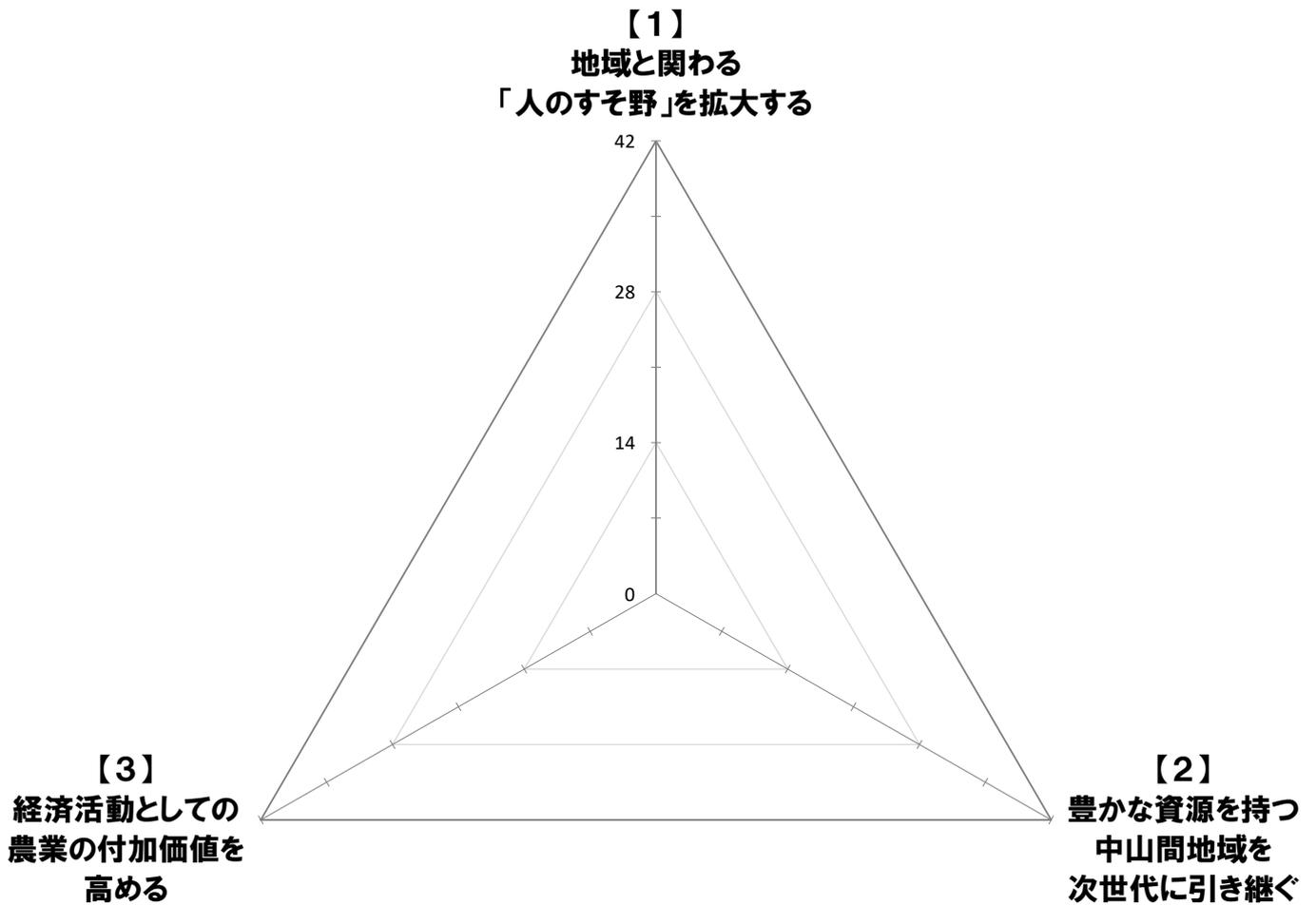
3. 経済活動としての農業の付加価値を高める分野における地域の現状を診断

No	項目	取組の程度（該当するものに○）			得点
		取組の程度0 (0点)	取組の程度1 (1点)	取組の程度2 (2点)	
1	農地集積にあたり、農地の受け手の選定に対する地主の意識	農地集積の予定はない	農地の受け手は縁故者に限られる	農地の受け手の選定にはこだわらない	農地の受け手の選定には、こだわらず、集積を進めている
2	耕作者間での利用権を交換する等、担い手ごとのエリア分け	エリア分けができていない	話し合ったことがある。	部分的にエリア分けが出来ている	既に、エリア分けが出来ている
3	営農組合等の組織化	組織化していない	組織化について話し合ったことがある	組織化を検討している	既に組織化済み
4	(水路更新、畦抜き等) 担い手が耕作しやすい条件整備	取り組んでいない	実施について話し合ったことがある	実施を検討している	既に条件整備済み
5	ほ場整備等生産基盤の強化	取り組んでいない	実施について話し合ったことがある	実施を検討している	既に基盤整備済み
6	暗きよ排水等乾田化	取り組んでいない	実施について話し合ったことがある	実施を検討している	既に実施済みもしくは乾田化の必要がない
7	自動田植機、自動草刈機、ドローン ^{※1} 等スマート農業 ^{※2} 、林業の導入	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	導入を検討している（農家がある）	取組済み（取り組んでいる農家がある）
8	伝統野菜の作付	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している（農家がある）	取組済み（取り組んでいる農家がある）
9	「環境こだわり農産物」、棚田米等ブランド化の推進	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している（農家がある）	取組済み（取り組んでいる農家がある）
10	転作の有無（ソバ、麦、大豆等）	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している（農家がある）	取組済み（取り組んでいる農家がある）
11	水田での野菜・果樹等高収益作物への転換	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している（農家がある）	取組済み（取り組んでいる農家がある）
12	農産物加工、直売所等の6次産業化の取組	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している（農家がある）	取組済み（取り組んでいる農家がある）
13	体験メニュー提供や、農家レストラン農泊などの取組	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している（農家がある）	取組済み（取り組んでいる農家がある）
14	間伐材のチップ化など、その他の地域資源を活用した取組	取り組んでいない	取組について話し合ったことがある	取組を検討している（農家がある）	取組済み（取り組んでいる農家がある）
合計点 (42点中)					

※1：ドローンは、人間による操縦がなくても自律的な飛行が可能な機器を指します

※2：スマート農業：ロボット、AI、IoT等の先端技術を活用したスマート農業技術の研究開発、社会実装に向けた取組等をご紹介します。

シート①' 地域診断結果記録(レーダーチャート)



診断結果は診断した取りごとに色分けして記入することで、地域活動の変化を確認できます。

色	診断年度

地域資源発掘シート

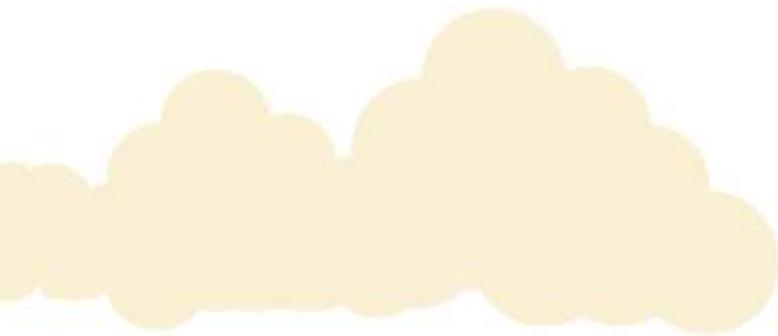
資源タイプ		具体的資源例	集落にある資源の名前 (例にある場合は○)
自然資源	野生生物	オオサンショウウオなど希少種、ホタルなど身近な生物、イノシシ、シカ など	
	景観	棚田、山村景観、並木 など	
	水資源	生水（しょうず）、湧水、河川、山水、滝、水草（肥料・花は水面飾り憩いの場に）、地下水、雪解け水、湖沼 ダム、ため池 など	
	植物	森林（木材から家・家具・器など）、竹林（竹）、低木・草（和紙・籠など）花 など	
	エネルギー資源	太陽光、風力、水力、地熱 など	
人工資源	伝統野菜	山田ねずみ大根、下田なす、杉谷なすび、杉谷とうがらし、水口かんぴょう、鮎河菜、日野菜、北之庄菜、豊浦ねぎ、小泉紅かぶら、泰荘のやまいも、赤丸かぶ、伊吹大根、万木かぶ、近江かぶら、坂本菊、守山矢島かぶら、弥平とうがらし、大藪かぶら など	
	加工品（農林水産）	あまんぼう（干し柿）、むべ加工品、山椒の佃煮、ふきのとう味噌、政所茶（新茶まつり）、栃もち、ミョウガ漬物、ナスとキュウリ畑漬け、山菜の卵の花漬け、山菜の塩漬け、チョロギの甘酢漬け、糍・味噌・酒などの農産物加工	
	伝統技術	藁細工、ヨシ細工、近江真綿、木地師、高島扇骨、信楽焼、穴太衆積み など	
	農地	田畑（ほ場整備済）、田畑（未整備）、耕作放棄地	
	農作物	米、麦、大豆など土地利用型作物、野菜、果樹 など	
	山村資源	材木、薪炭、間伐材、山菜、きのこ、木工品、木質ペレット など	
	体験・交流	レクリエーション施設、体験・交流施設、体験農場 など	
	団体	地元企業、社会福祉法人、大学、NPO法人、地域運営組織 など	
	建造物	シン垣、山城跡・鉦山跡などの遺構、古民家、空き家、公民館、直売所、古い建築物、街並み、廃校、公園、ずい道、獣害防止柵 など	
	中間生産物	家畜糞尿、堆肥、下草、落葉、廃棄農作物 など	
	観光地	比叡山延暦寺、琵琶湖バレイ、多賀大社、忍術村温泉地 など	
人的資源	技術資源	専門技能・技術者、狩猟者、モンキードッグ、特許、商標権、ノウハウ、大学、高校 など	
	関係資源	地域ネットワーク 世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策取組組織、中山間地域等直接支払制度取組組織 など	
	担い手	農業後継者、認定農業者、集落営農組織 新規就農者 など	
	外部人材	地域おこし協力隊員、緑のふるさと協力隊員、集落支援員、特定地域づくり事業による派遣労働者 など	
	若い世代	若い定住者（Iターン・Uターン含む）、女性農業者（候補含む） など	
	出身者	他出子（集落から出て行っている子ども）、郷土出身著名人、歴史人物 など	
社会関係資源	共同扶助	高齢者の見回り活動など集落の助け合い など	
文化資源	伝説	天女の羽衣伝説、三上山のムカデ伝説 など	
	神事	オコナイ、安曇川流域のシコブチ信仰、黒川の太鼓踊り、熊野神社の弓取り神事、朽木針畑の六斎念仏 など	
	祭事	近江中山の芋競べ祭り、すし切り祭り、七川祭、竹梅祭 など	
	風習	虫送り、郷土料理 など	
	芸能	能、和太鼓 など	
	歴史	寺社・仏閣、遺構・遺跡、仏像など文化財 など	

課題の抽出・「こうなりたい」シート

テーマ	診断 得点	課題	こうなりたい
<p>地域に関わる 「人のすそ野」 を拡大する</p>	<p>／ 42</p>		
<p>豊かな資源を 持つ 中山間地域を 次世代に 引き継ぐ</p>	<p>／ 42</p>		
<p>経済活動 としての 農業の 付加価値を 高める</p>	<p>／ 42</p>		

振興策の検討シート

実践する振興策	
具体的内容	
活用する資源	
実行するために必要なこと	
実施体制・ネットワーク	
活用できる制度	
継続性 スケジュール	
事業費 (費用項目)	
目標	
参考になる事例	
行政や外部有識者等の意見	



発行：滋賀県 農政水産部 農村振興課
令和4年（2022年）12月

